

はじめに

皆様におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、学校保健会の編集委員のご尽力により、「いびの子のからだ」が編集刊行されました。

さて、この2年間は世界中で猛威を振るうコロナにより、様々な社会生活に制限がなされております。学校での各種イベントの中止（卒業式、修学旅行などの延期、内容変更、クラブ活動中止）など、さらに自宅待機により子どもたちにとってはストレスのある生活が長期化しておりました。国立生育医療センターによる3万人のアンケート結果で、子どもの現状は、ストレスでのイライラから不安へ、さらに無気力になり、最終的にうつ状態へと移行していくことが判明しました。問題の早期発見から対策支援の重要性が指摘されています。コロナ禍により就寝時刻は3割以上の子どもが遅くなり、心のケアが必要な中等度以上のうつ症状を呈する割合は15～30%で出現しているという結果があります。大都市に比し、幸い揖斐郡ではそこまで厳しいとは思われません。

この2年間は学校保健研究総会は中止となりました。安全・安心な大会が早く開催されることを願っています、現状は第5波のデルタ株から第6波オミクロン株の感染の最中です。

子どもたちの心と体の健康を知るためにも「いびの子のからだ」は重要な資料となっております。コロナ終息後には、その前後を比較しうる大切な資料となると思います。ぜひ有効に活用していただきたいと願っております。

最後になりましたが、編集に携わって頂いた皆様、本当にお礼申し上げます。

令和4年3月

揖斐郡学校保健会

副会長 揖斐歯科医師会長様